

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700
国立療養所 奄美和光園
電話 (0997) 52-6311

平成28年9月1日
(2016)

第102号

■表紙	1	■ハンセン病市民学会を開いて	9
■二回目の病院機能評価を受審	2～3	■「ハンセン病問題を正しく理解する週間」パネル展	10
■「病院機能評価受審認定」結果を受けて	3	■「ふれあい看護体験」を実施して	11
■第24回奄美和光園夏祭り	4～5	■叙勲と熊本地震	12～13
■北大島レクリエーションに参加して	5	■看護協会長表彰を受賞して	13
■第2回ミニ運動会	6	■お便り紹介	14
■七夕会	7	■人事異動・和光園日誌・編集後記	14
■「舟こぎ競争」に参加して	8		

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



和光園の鳳凰木

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

二回目の病院機能評価を受審

－「認定」期間の更新なる－

奄美和光園での病院機能評価は平成22年度の初回認定から五年が経ち、この度二回目の受審の結果、「認定」期間が更新されました。今回、再受審をするに当たって、その是非をまず医局で話し合い、「良質の医療」を維持する観点から再度受審することが望ましいという意見でまとまりました。次いで幹部会に諮り、そこで再受審をするという結論に達しました。この結論を管理診療会議で周知した後、受審準備のためのWG（ワーキンググループ）を設置しました。WGでは第一回目のような戸惑いや大きな困難もなく、事前に配布された小項目に対する自己評価や追加的に必要となるマニュアル等の作成を行い、また直前には幹部による受審時のリハーサルも行い、職員全員で審査に備えることができました。和光園では、前回の受審の時と比べて今回の受審では二つの点で大きく違っていました。一つは、常勤医師が二名から三名に増えていること（定員を充足）、もう一つは、皮膚科の一般診療を病院機能の評価領域に加えたこと（前回は皮膚科診療が休診中だったため除外）でした。

審査は、事前の書類審査と1月27日～28日の訪問審査からなっています。訪問審査当日は、最初に奄美和光園の担うべき役割とそれを全うするための考え方、入所者を中心とする医療の在り方、一般診療の歴史的経緯と地域における皮膚科診療の現在の役割についてプレゼンテーションを行い、これに引き続いて、主たる機能種別「一般病院1」を適用した審査が行われました。審査内容は、大項目として4つの領域を設定し、その領域にそれぞれ中項目として16分野を設け、それをさらに89の小項目について事細かに審査する仕組みとなっています。そのため、審査そのものは容易なものではないという印象がありました。いずれの項目に対しても、口頭で説明するだけでは不十分で、十分な説明をするためには、運用手順を明記したマニュアルを準備し、それに基づいて、実際の医療行為が行われていることを立証する必要がありました。多くの手順書は前回の受審時に作成さ



れ、しかもこの五年間で看護課を中心として、逐次改訂されてきたもので、改訂履歴も明らかになっていました。審査終了後には和光園に対する理解も含めた簡単な講評がありましたが、概ね良好な状態であるという内容でした。約一ヶ月後に届いた中間報告でも特に指摘事項はなく、良い結果が得られることを期待できるものでした。そしてこの度、認定書が届きました。その中では、「貴病院が日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成していることを証する。認定期間：2016年2月4日～2021年2月3日。初回認定2011年2月4日。交付日：2016年5月6日。認定2回目★★。」と記載されています。

今回の審査結果は、機構のホームページで公開する『病院機能評価結果の情報提供』で閲覧できます。我々が日頃実践している仕事に対する評価が簡潔に記載されていますので、その中から一部抜粋してみます。病院の特色の項では、『入所者の高齢化に伴い医療のみならず、看護・介護を含めた高齢者福祉にも重点が置かれている。一方

では地域に開かれた機関として、皮膚科診療を一般外来で行う等努力され、地域の信頼も得られている。特に患者の人権擁護や医療安全や感染制御、療養環境の整備への取り組みには格段の努力が払われ、ハンセン病後遺症患者への配慮がうかがえ高く評価された。』組織運営では、『一貫して人権と安心・安全の医療、質の高い、患者中心の医療を目指す精神が堅持されている。』さらに、患者中心の医療について、『患者ごとの社会復帰支援や終末期に至るまで安心して生活が送れるよう堅固な支援体制となっている。』このように記載されていて、我々が日頃心がけている入所者中心の仕事の在り方が、的確に評価されています。

今回の準備に当たった職員の皆さん、ご苦労様でした。しかし、仕事はこれで終わりで

はありません。今後もこの認定を受けた状態を維持すると共に、今回少数とはいえB判定だったいくつかの項目を改善し、次の再々受審に備えて欲しいと思います。今回の認定期間も五年間です。その間にも入所者はますます高齢化し、一人ひとりに応じた対策を模索する日々は続きます。和光園での仕事は、医療体制の維持と毎日の生活援助が両輪となっています。そのどちらにもそれを受ける入所者の考えが中心にある必要があります。これからも入所者を真ん中に置いた医療と生活援助ができるよう皆さんの協力をお願いいたします。

国立療養所奄美和光園

園長 加納 達雄

「病院機能評価受審認定」結果を受けて

去る1月27日・28日の2日間、病院機能評価を受審し、6月に「認定」の審査結果が報告された。

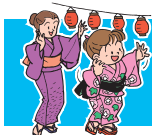
受審当日を振り返ると、病棟は第1日目の13時から16時55分までの半日間、病棟概要の確認（病棟ラウンド）及びケアプロセスの調査を受けた。緊張した空気の漂う中、病棟概要確認では、診療サーベヤーと看護サーベヤー2名の訪問があった。病棟入口に病棟師長、副看護師長、看護課・事務職員が待ち受け、予定した動線に沿って病棟内をラウンドしながら質問を受けた。具体的な質問内容としては、「緊急コールは」「口頭指示受け方法は」「救急カートの点検はいつ、誰が実施するのか」「点滴オーダリングの実際を見せて下さい」「医療機器の点検方法」などの質問があり、医師・看護師長・副看護師長・事務職員等が答えた。

病棟ラウンドが終わった後、ケアプロセス調査会場のカンファレンス室にサーベヤーを案内した。会場ではマニュアルなどを直ぐに取り出して提示できるように、ラックに乗せ順番に並べて準備した。ケアプロセス調査は「入室中に急性増悪した入所者への急性期治療とチーム医療の実際」について入院から退院までの一連の流れに沿って行われた。質問内容は、「診療や看護はいつ、誰が、どの

ように実施し、どこに記録されているか」また、「多職種はいつ介入しているか」などチーム医療の実際を調査する内容であり、サーベヤーの質問には主治医・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・MSW・OT・PTなどがそれぞれの質問に答えた。調査が進むにつれて質問のみでなく、当園の医療・看護をPRできるような議論を交わすこともでき、会場の空気が緊張から笑顔に変化していくのを感じる中でケアプロセス調査は終了した。病棟スタッフの感想は、「当日は緊張したが質問に答える時、和光園の看護を伝えたいという思いもあり必死で答えた」「全員で受審準備に取り組んだことは大変だったが、現状の問題点が把握できてよかった」「他者の目で評価してもらい、できている所・できていない所が判明してよかった」などであった。

病院機能評価受審に向けて準備したケアプロセスや快適な療養環境の整備を継続し、整備されたマニュアル等を活用して実践に活かせるように努力していきたいと思う。

病棟看護師長 岩越 はるみ



第24回 奄美和光園夏祭り



今年の夏祭りは、青空広がる快晴の中、台風、雨の心配なく無事開催の運びとなりました。昨年まで使っていたテントは古びてきたため、新しくライトグリーン色、ライトグレー色のテントを購入しま



した。夜店のテント前では大人から小さい子供まで行列を作っており、たくさんの方で賑わってありました。開会挨拶として園長が「園の役割として入所者の方々に元気に支えること、そして

皮膚科診療での貢献を生かしながら地域に開かれた療養所を目指していく」と述べました。また来賓代表として奄美市副市長（代読）からは、「全国ハンセン病療養所の中では最小規模ながら、農業大会、夏祭り、ゲートボール大会を通して地域に広く関わっており、5月13日の全国ハンセン病市民学会では、ハンセン病療養所の現状および将来のあり方について活発な意見が交わされたことへ感謝したい」とのお言葉を賜りました。

余興の第1演者として招待客の生元高男さんによる島唄から始まりました。力強い歌声と絶妙な三味線の掛け合いが見事でした。次に保育所園児による「だんご虫体操」では、小さな体を揺らしながら元気一杯に歌ってもらいました。第3演者の楠田莉子さんは、昨年の全国民謡民舞大会の青年部旗戦で優秀賞を受賞されており、澄んだ伸びのある美しい歌声には会場から大きな拍手が沸き起こりました。ゆらいの郷「お祭りマンボ」では、お面をかぶってのコミカルなひょっこ

踊りが印象的で、観客を笑いの渦に巻き込みました。治療棟・総看護師長室では「エイサー風踊り」ということで太鼓バージョンと扇子バージョンの2部構成により、沖縄エイサーを上品にアレンジした形で華麗に踊りました。病棟「きよしのズンドコ節」では、（優勝ねらい？）振り付け師の先生にお願いしてDVDで練習するほどの力の入れようで、息のそろったキレのある踊りを披露しました。医局コメディカルでは「あたりまえ体操」を模しての「和光園体操」で、演奏者と話し手の間から時折出てくる「ボケとツッコミ」の巧妙なやりとりが見どころでした。そして入所者のカラオケでは、日頃の練習成果が実ったの熱唱により、観客一同を拍手喝采で沸かせました。日も暮れて余興が進む中、司会者よりビール、焼き鳥の完売アナウンスがあり、祭りの盛況ぶりがいっそう伝わってくる場面も。余興の「島のブルース」、「六調」で会場全員が三味線、太鼓に合わせて踊りながらフィナーレを迎えました。



最後に末筆となりましたが、入所者の方々にはこの暑い日を楽しんで元気にお過ごしただけですよう祈念しますとともに、またご支援していただきました

地域の皆様方にはこの場を借りまして感謝の言葉を申し上げます。

福祉室長 磯部 武嗣



北大島レクリエーションに参加して

6月23日、北大島レクリエーションに入所者の方6名と職員8名で参加しました。

数日前に梅雨明けした奄美は連日晴天で、当日も太陽が顔をだしました。大勢のスタッフに見送られて出発。車窓から観える風景で、昔話に花が咲きました。

最初に笠利町にある奄美パークの展望台へ上りました。ここは旧奄美空港跡地で、滑走路の一部も残っていました。青い海やサトウキビ畑など素敵な笠利の景

色を眺めた後は、赤木名海岸でお弁当を頂きました。入所者の方が作って下さった美味しい豚骨・豚足料理もあり、賑やかな昼食となりました。



帰路ではカラオケで大いに盛り上がりました。入所者の方々と楽しい時間を過ごす事ができ充実した1日となりました。



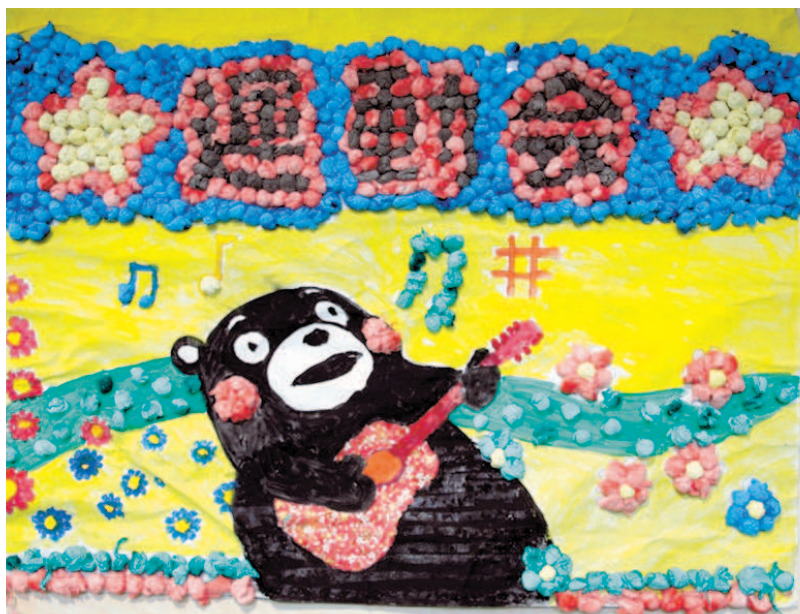
病棟看護師 坂口 静香

★ 第2回 ミニ運動会 ★

梅雨が明け、本格的な夏到来を感じさせる季節となり「まいじんきばりゅっと」をスローガンに6月30日第2回ミニ運動会をあすなろホールで開催しました。一般舎、病棟、ゆらいの郷から入所者18名、保育園児5名、保育士4名、職員55名総勢82名参加の大運動会となりました。

園児代表の選手宣誓を皮切りに、園児のパン食い競争、鈴割競技に入所者は笑顔で「かわいいやあ〜、がんばれよ〜」などの声掛けをし大きな拍手で声援をおくっていました。飢い競争では普段まじめな顔で仕事をしている職員が粉まみれの顔でおどけて入所者に化粧を披露する素敵な姿に大喜びでした。

昼食は全員で弁当を囲み「皆で食べるとおいしいね、これ、食べてくれんね」など会話も弾み箸も進みました。午後は宝釣り競争で始まり、竿を操り大物を釣り上げようと竿先に神経を集中させる真剣な顔が見られました。さあ、いよいよ最後のメインイベント、職員と一緒にスキップをとりながら心をついに頑張る競技!! “借り物競争”です。普段馴染みのない職員と抱き合ったり、歌を歌ったり、大声で笑ったりする姿は圧巻でした。参加した入所者からは「園児の競技を見るのが楽しみ」、「職員と触れ合えて良かった」などの声があり運動会の成功に来年も継続したいと思いました。



看護サービス委員長 西濱 るみ子



七夕会

8月9日(火)七夕会が行われました。今年趣向を変え、各部署から飾りを持ち寄り、中央廊下、渡り廊下に計10本の七夕ロードが出来ました。初の試みの七夕会に計画当初は各部署、多忙な時間の合間に飾りの準備ができるか不安もありましたが、とても綺麗な飾りに感動し、嬉しく思いました。和光園全職員で取り組み、男性職員が作成した細かい綺麗な飾りは女性以上の力作でした。日頃、中央廊下を歩く機会の少ない職員も自分達の作品を次々に見に来ることで入所者と触れ合う機会になりました。

当日は、リハビリ室前に案内所を設け、「綺麗だな、素敵だな」と思う飾りにゆらいの郷10名、病棟4名、治療棟9名の入所者が投票しました。案内所では星の形に練り抜いた給食室特製のゼリーも配られ、入所者の方も喜んで持ち帰りおやつに頂いていました。入所者からは、「飾りが沢山あって、こんなに綺麗にあるの初めて見たよ」「3枚じゃ足りないからちぎって入れようかい、どれも綺麗だから悩むやあ」等の嬉しい言葉も聞か



れました。5日間飾ったことで、自分の行ける時間で見に行け、また、何度も足を運んで頂き、普段イベント等に参加されない入所者も外出するきっかけになりました。

投票の結果は、①金賞《ゆらいの郷》、②銀賞《病棟》、③銅賞《治療棟》でした。ご協力頂いた入所者並びに職員の皆様、ありがとうございました。

サービス委員 大海 かおり



「舟こぎ競争」に参加して

今年も奄美祭恒例の舟こぎ大会が8月6日に開催されました。男性一般の部参加チーム149チーム、子供・女性の部が50チーム参加し日頃の練習成果を競い合いました。当園の舟こぎメンバーも予選通過を目標に6月から練習を積み重ね本番に備え、男性・女性共に2チーム参加しましたが、残念ながら予選落ちの結果となってしまいました。どのチームも転覆・迷走することなく、それぞれのチームが年々レベルアップしていることを痛感しました。



また、今年は、TV「イッテQ」のレギュラー「イモトアヤコさん(太眉の)」も舟こぎに参加し、有名人追いかけの行列があったり、昼過ぎから横殴りの大雨が吹き荒れ大会が中断になったりと大波乱の状況もありました。しかし入所者の方々の応援や差し入れ、メンバーによる昼食の多彩なメニューを雨降る中、テントの中で口一杯はおばり腹一杯、胸一杯でした。



奄美祭りでの惨敗を晴らす思いで、8月21日に小湊漁港での舟こぎフェスティバルに各1チームずつ参加しました。男子・女子チームが同じ出艇の組み合わせになっており、男子チームのすぐ後ろについて女子チームも折り返した所で、双者がぶつかってしまい決勝まで上がれずの結果でした。



今年の舟こぎは残念な結果でしたが、応援された方々や勤務に配慮されたそれぞれの部署の職員には感謝です。楽しい思いをさせて頂き有難うございました。来年こそは……リベンジするぞ！

病棟看護師
仲田 ノリ江



ハンセン病市民学会を開いて

平成27年12月、ハンセン病市民学会事務局の方が奄美和光園を訪問し、園長先生に「ハンセン病市民学会奄美集会」の協力要請をしました。

平成28年1月に開催成功に向けて奄美実行委員会を立ち上げ、実行委員長並びに事務局長を選任し、具体的に動き出します。しかし、4月14日および16日に発生した「熊本地震」で開催が危ぶまれましたが予定通り行う事になりました。

梅雨時期でお天気が心配される中、北は北海道から南は沖縄まで総勢100人を超える会員及び奄美地元参加者50人、マスコミなどで奄美和光園講堂は満席となり、ハンセン病市民学会初の「ハンセン病市民学会奄美集会」が開会します。

来賓挨拶では、奄美市長の朝山毅様、奄美和光園長の加納達雄様、自治会連絡員の山田祥様の3人の方に登壇して頂きました。

続いて、奄美和光園皮膚科医長の馬場まゆみ先生より「奄美和光園での地域医療～現状と問題点から見える可能性～」と題して記念講演を行い、「科を担当する常勤医が1人しかおらず、外来診療・入院治療・手術など、すべての業務を1

人で行う」ことの限界や、「医療定員数は決まっているが、保険診療を行うのであれば、交代要員は必要」と語られました。

後半は弁護士の徳田靖之氏より「奄美和光園のこれからについて」の基調報告があり、「地域にとって、医療・福祉等における拠点としての和光園」や園に深い関わりを持つ「小笠原登・田中一村記念資料館」の整備や高齢者福祉施設誘致の必要性を訴えました。

パネルディスカッションでは、弁護士の国宗直子氏をコーディネーターに、弁護士の徳田靖之氏、一村会より美佐恒七氏、全医労奄美支部長の福崎昭徳氏、僧侶である私の4人がパネリストになり、「奄美和光園の将来を語る」について、それぞれの立場から意見を交わしました。

集会開催に向けて、園長先生はじめ多くの職員の方にご尽力いただきました。お礼申し上げます。ありがとうございました。

ハンセン病市民学会 奄美集会
実行委員長 福田 恵信



「ハンセン病問題を正しく理解する週間」パネル展

県では、奄美市との共催により、「ハンセン病を正しく理解する週間」（6月19～25日）に合わせて、奄美市役所と県立奄美図書館においてパネル展を行いました。

ハンセン病問題の歴史について解説したパネルや当時の写真のほか、奄美和光園の協力を得て、敬老祝賀会などの行事や「ふれあい和光塾」での野菜づくりを通じた交流の様子など、現在の療養所の

写真パネルを展示しました。

パネル展は県内4ヵ所で開催しており、ハンセン病問題を正しく理解し、偏見・差別の解消につながることはもとより、人権について幅広く考える機会となっています。

御協力をいただいた奄美和光園の皆様には深く感謝いたします。

まだまだ残暑が続いておりますので、入所者の皆様もくれぐれもご自愛ください。

鹿児島県保健福祉部

健康増進課 技術主幹 上園 千鶴





平成28年7月26日(火)、「看護の日」制定記念事業のひとつとしてふれあい看護体験が行われ、県立大島高校より4名の女子生徒の参加がありました。学生たちは初めて着る白衣とナースキャップに、嬉しいながらも少し恥ずかしそうにしており、その姿はとても初々しいものでした。

始めに吉原総看護師長より当園の概況について説明があり、その後、病棟、不自由者棟の2グループに分かれて看護体験が行われました。実際に学生同士で血圧測定や聴診、歩行介助や食事介助、トロミ水や栄養補助食品を試食し、介助時の相手への配慮や食形態の工夫について学びました。また、あすなろホールでは入所者と共にお手玉入れのレクリエーションを行い、生活の中の楽しみや対象に合わせたコミュニケーションについても学びました。看護体験は約1時間半と短いものでしたが、時間と共に学生の表情も和らぎ満面の笑顔になっていました。

最後の意見交換では、「とてもやりがいのある仕事だと感じた」「今回の体験を通して、看護師になれるように頑張りたいと思った」という言葉が聞かれ、学生それぞれがさらに看護師への思いを強くしたのではないかと思います。

今回の体験に協力して頂いた入所者並びに職員の皆様、ありがとうございました。

不自由者棟 副看護師長 川畑 恵理
(実習指導者)



叙勲と熊本地震

奄美和光園の皆様お元気ですか。私は和光園を退官後、平成22年に熊本市北区で皮膚科を開業し、地域医療に少しでも貢献できるよう精を出しています。和光園開園70周年記念に出席以来奄美に行っていませんが、機会を見つけて園を訪問し皆様にお会いしようと思っています。

さてこの度、図らずも春の叙勲の榮に浴し「和光」誌に寄稿を依頼されましたので叙勲の模様を思い起こしながら書き綴ってみます。今年（平成28年）3月中旬、和光園庶務から私の履歴や業績の書類確認が始まっていて何か事が進んでいるような感触は得ていました。4月5日加納園長から叙勲内定の電話をいただき本格的な出来事になっている事を思い、これから先何かと行事の多いことだろうと観念していました。

ところが4月14日21時26分に熊本地方を震源地とするマグニチュード6.5の地震（前震）と28時間後の4月16日1時25分に同じく熊本地方を震源地としたマグニチュード7.3の地震（本震）が起こり、熊本・大分地方に甚大な被害をもたらしました。地震により我が家も少なからず被害を受け、屋根瓦が一部落ち雨漏りがあってブルーシートを掛けてもらいました。外壁には亀裂や剥げ落ちた部分もあり、室内にも壁に亀裂が入り、少しずれたところが見えます。家具類は倒れてはいませんが、本は散乱し、食器類もかなり破損していました。しかし、北区にある前川クリニックではパソコンやレセコンなど器物の破損はほとんどなく、散乱した書類・雑誌類の整理をする程度で4月18日には診療を再開するこ

とが出来ました。その折、清潔な水の供給をいただいた皆様には感謝申し上げます。

その後も余震の残るなか、4月29日に新聞紙上に叙勲者の氏名が公示されましたが、新聞の記事に目を通すこともできない方々も多かったようです。しかし、その日は電話やメール、祝電が多く寄せられましたが、益城町、西原村や南阿蘇村など大きな被害を受けた住民の方に対し、祝いごとを言われるのも憚るところもありました。

そうした中、5月17日上京し翌18日、朝早くホテル内の「吉兆」で朝食。家内の着物の着付けも終わり、私は慣れないモーニングを身にまとい厚生労働省に赴きました。オリエンテーションを受けた後、厚生労働副大臣から一人一人呼称され勲記を受け取り、伝達式が厳かにとり行われました。中綬、小綬章合わせて43名と言う話でした。ここで熊本の七城町にて消化器内科を開業されている元国立熊本病院の先輩である木村圭志先生とお会いしました。木村先生は付添人として産婦人科医の娘さんとご一緒に出席されていました。その後12階の昼食会場に案内され昼食となりましたが、この会場は和光園の園長をしているとき厚生労働省との会議をしていた部屋であったことを思い出し感慨深いものがありました。午後3時半まで外苑公園で1時間半ほど時間を過ごし、坂下門から皇居に入ることになりました。当日の拝謁予定者が全員揃うまで、整列の仕方、皇居内の写真撮影は禁止と、さまざまの注意事項を宮内庁職員から申し渡されました。いよいよ豊明殿へ。豊明殿内は受章者と配偶者

のみが入殿できるのですが、それぞれのグループが横7列に並び入殿し、右向け右で正面陛下をお迎えするかたちになっていました。拝謁は天皇陛下が左側の大襖の入口より豊明殿にお入りになり、正面で受章者全員に「今までのご苦勞に感謝するとともに今後も健康に留意されるように」とのお言葉をいただき、豊明殿内を5分間ほどお歩きになって、左側の大襖の奥に入られ拝謁は終了しました。拝謁後は皇居内で唯一の写真撮影が予定されている豪華なシャンデリアの輝く広間で、各省ごとに記念撮影が行われました。翌19日、天皇・皇后両陛下は早朝熊本に出立され、熊本地震の被災者の労をねぎらわれました。

今年の春は、瑞宝中綬賞の叙勲は自分にとって人生の地震であり、また自然に

は逆らえない熊本地震の強大なエネルギーを経験した極めて脳裏に刻みこまれた平成28(2016)年となりそうです。

奄美和光園 名誉園長
皮ふ科 前川クリニック
院長 前川 嘉洋



看護協会長表彰を受賞して

平成28年5月21日、鹿児島県看護協会通常総会が鹿児島県市町村自治会館で開催されました。その中で、鹿児島県看護協会長授賞式があり参加しました。受賞者は会員11,736人の中で30名、奄美からは2名の受賞でした。

今年3月初めに看護課より受賞への推薦の話があり、微力な私がいいのかという戸惑いの思いと40数年の看護人生を終え定年を迎える節目に感慨深く、身に余る光栄との思いで、快く受賞を受けようと思いました。

今後は、この受賞を励みに今まで得た看護経験を活かしながら地域の方々へ少しでも貢献していきたいと考えています。

このような機会を与えて下さった方々

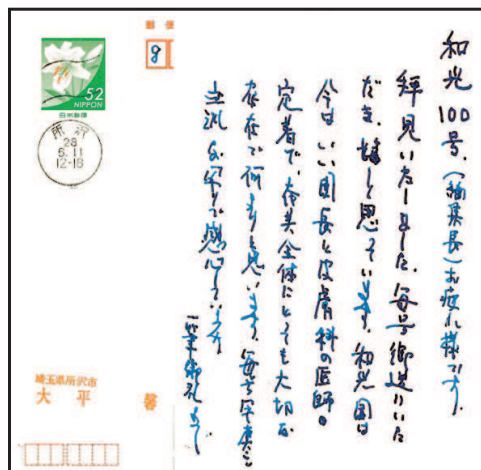
へ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

前 治療棟 看護師長 宮原 和子



お便り紹介

和光園5代園長
大平 馨 先生から
100号について
お礼とお祝いのハガキ頂きました。
ありがとうございました！



人事異動

(平成28年5月1日～平成28年8月31日)

H28. 8. 8 金井 瞳

看護師

育児休業

和光園日誌

(平成28年5月1日～平成28年8月31日)

- H28. 5. 13 ハンセン病市民学会
5. 17 一般入院 59才女性
5. 24 一般入院 70才男性
6. 15 職員健康診断 6/15、6/16、6/22
6. 20 厚生労働省企画課 課長補佐来園
6. 23 園外レクリエーション(北大島)
6. 30 園内ミニ運動会
7. 27 ふれあい看護体験
7. 28 奄美和光園 第24回夏祭り
8. 5 一般入院 90才男性
8. 6 第53回奄美祭り花火大会見物
第53回奄美祭り舟こぎ競技4チーム参加
8. 9 七夕会
一般入院 69才男性
8. 27 有屋町内会 節踊り

編集後記

今年はなかなか発生しなかった台風も、8月下旬から立て続けに発生し、普段は経路でない東北や北海道で大きな被害が出ています。備えあれば憂いなし、災害は忘れたころにやってくるといいます。日ごろから十分な備えを心がけておきましょう。又最近では朝晩に秋の気配も少しずつ感じるようになりました。体調に気をつけてこの暑さ残る夏をのりきりたいものです。

編集委員 押川 英子